

ちっちゃいものくらぶ

トビハゼ(さん)

前に勤務していた学校の生物部で、江戸川が近かったこともあり、トビハゼの研究をしていた。文化祭ではとても楽しい展示が工夫されていた。

生徒手作りのトビハゼの縫いぐるみが私のお気に入りだった。

地学部では水を浄化する仕組みの模型を作っていたり、11月頃だったかな、毎年時期になるとどんぐりをたくさん拾ってきて、手作りクッキーをお披露目したりしていた。「縄文の味 どんぐりクッキー」はお世辞にも美味とは言えなかったけど、手間ひまをかけて作る物をいただける時間が何だかやけに嬉しかった。

さてさて、お話をトビハゼさんに戻そうね。体調10cmほど。お目めは頭のとっぺんに突き出てる。



左右の目がすごく近いのは、平坦な干潟を見渡すのに適してるからなんだって。胸びれのつけ根はマッチョ！

汽水(海水と淡水が混ざり合う場所)域の泥干潟に棲んでる。冬は巣穴でひきこもり生活。干潟上では胸びれで這ったり、尾びれを使ってジャンプもする。近づくとカエルみたいな連続ジャンプで素早く逃げるから、捕まえるのはなかなか難しい。

潮が満ちてくると、水上をピョンピョンと連続ジャンプして、水際の陸地まで逃げる。

食べ物：甲殻類（エビ、カニ、オキアミ、フジツボミジンコなどのこと）
多毛類（ゴカイとかのこと）



魚類は普通えら呼吸で、代謝でできるアンモニアを水中に出す。だから空気中では呼吸ができない上にアンモニアが体内に蓄積されて脳障害を起こしちゃう。けれどトビハゼさんは皮膚呼吸の能力が高い上にアンモニアをアミノ酸に変える能力があり、空気中での活動が可能なんだって！まったくもって、かわいい上にすごい力を持つてるもんだ。

産卵期は6～8月でオスは口から泥を吐き、泥中に巣穴を掘り縄張りを作ってメスを呼んで卵を産んでもらう。寿命は1～3年。生後1年で全長5cmになるけど、オスの大部分はここで繁殖のお仕事をして、その後は死んじゃうんだ。メスは生後2年、全長7～9cmまで大きくなって、子孫を残すお仕事をします。鈴虫さんもそうだけど、トビハゼさんもメスが長生きなんだね。あ、人間もか…。

(本文の内容はウィキペディアを参考にしています。)

☆南高生物室にも、トビハゼさんがいるよ！すごくかわいいから見に行ってみるといいね。